

子どものあそび☆アート体験ひろば

National Institution For Youth Education
NIPPON KODOMO 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

2019年7月24日(水)

きぼーる&千葉市文化センター

報告書

主役は きみだ!

参加者 219人
指導者 20人
スタッフ 10人



きぼーる会場

千葉市きぼーる広場 67人
あそびのひろば

1回目 10:00~11:45 34人
2回目 13:15~15:00 33人

指導者：市川淑江 和田祐子
五十嵐豊子 大塚るい

千葉市きぼーる広場 41人
殺陣・アクション

1回目 10:00~11:45 17人
2回目 13:15~15:00 24人

指導者：石田武 宮崎重信
綿貫のばら 滝口淳子

千葉市きぼーる広場 42人
こま・けん玉あそび

1回目 10:00~11:45 12人
2回目 13:15~15:00 30人

指導者：こまのたけちゃん
中村幸恵・白鳥みゆき
岡田泰子

千葉市文化センター 45人
アフリカンパーカッション

1回目 10:00~11:45 19人
2回目 13:15~15:00 26人

指導者：BB モフラン
ダウディ 當間典子
鈴木佳子

千葉市文化センター 24人
ダンス

1回目 10:00~11:45 13人
2回目 13:15~15:00 11人

指導者：安西真幸 安西千紗
宇野京子 中川香子

★子どもの様子 <1回目 10:00~11:45 子ども11人 大人1人>

たけちゃんの技の披露ではじまり「母ちゃんごま」でこまが次々回りだすと、一斉にみんなの顔がほころんだ。「地球ごま」で参加の大人も身を乗り出し箱も一緒に回る時には全員で「わあ〜!!」と歓声があがり、たけちゃんの一挙一動に集中した。「まじで ヤバイって」「へ〜」などおもわず声が漏れながら、口も空いたまま、まばたきも忘れてみている。刀の芸では、「けがしないでね」という子も。実技に入ると、初めて体験する子には紐を巻きつけることが難しく、なかなか上手くできずにいたが、あきらめることなくチャレンジしていた。「1年生には難しいね。誰でも初めから上手くは回せないんだよ」という講師の言葉が励みになっていた。けん玉の玉落としとしては、果敢に戦いを挑む姿が見られた。たけちゃんとのコマ回し対決では、「もう1回!」と何度も勝負を挑む姿が見られ、終了の声を掛けるのがはばかれるほどに集中していた。



★子どもの様子<2回目 13:15~15:00 子ども26人 大人4人>



午後は参加人数が増え、講師の技の披露では、大きな歓声や拍手で盛り上がって始まった。プログラムを変更して、午後もこま・けん玉に参加した兄弟が、できる技が増えて「級が上がった」と喜んでいて。練習の時も、「犬の散歩」などもぶつからず、板の上にこまを練り出す時もお互いが自然に順番にしたり、拾ってあげたり、仲間意識が見られた。なかなか回らない子が、まわせたときは拍手を送っていた。兄妹で参加していた二人は、コマ回しが上手くできない妹を気にかけて兄が時折様子を見にくるという微笑ましい姿も見られた。けん玉の飛行機に挑戦していた子は、練習時間いっぱいやって、4かい成功させ、講師にも驚かされていた。どうしようと立っていたが、勇気を出して、講師に自分から声をかけ、教えてと言えた子もいた。一緒にいた親が、教え方のうまさとか会話の楽しさに感激していた。うちの子はメンタルが弱いと思っていたが、30分でできなくてもめげてなかった。泣かずにできるまでやるとか、自分から話しかけて聞きに行くとか驚いた。講師の否定的でない、声掛けが良かったと、嬉しそうに話してくれた。

●子どもたちの声(アンケートから)

★やる前の気持ち

- *ドキドキした(複数) *こまができるか心配 *何をやるんだろう?
- *知らない人がいてこわかった。(やってみて) たのしかった
- *できないかも *こまはぜったいできない *どうしよう*むずかしそう

★やってみてどうだった?

- *できるようになってうれしかった(多数) *すごくうまくなって、わがもしてよかったです
- *こまのたけちゃんとコマでしようぶして、どうてんできてうれしかった
- *ひもかけてのせができた *もっとやりたい



■指導者のヒアリング・感想

やりたくて来ている子どもたちなので、集中力もあり、次々と挑戦していく。上手な子が多かった。最近の子は、意味もなく褒められても納得しない。何をほめられているのか具体的に理解して納得したら、実感としてうれしい。ただ頑張ったと言うのではなく、具体的に誉めてあげることが重要だと思っている。時にはダメだったところはどこかも、はっきり言ってあげることも必要と考える。黙々と練習して、午前1年生が1人、午後5年生が1人、けん玉の飛行機を成功させた。子どもって、やろうという気持ちがあるとすごい。



★子どもの様子<1回目 10:00~11:45 子ども16人 大人1人>

右手を前に突き出しおおきな声で「パンチ！」右手、左手、順番に「かっこよく大きな声で！」と講師から言われると、小1の男の子の「エイッ！」という元気な大きく高く響く。つられてみんなもおなかから大きな声が出た。次は手を体から振り切りながら「フック！」そして「ボディ！」なんだかボクシングの練習のようだ。頭で技を覚えながら、体で表現するのはむずかしく手と足が逆になり戸惑う子もいた。攻撃の次はやられ方とかわし方の体験。講師のやられ方・かわし方を見て「うまい！かっこいい！」と気づき、派手にやられてかわせてみせた。そしていよいよ二人一組での殺陣の実践。相手との距離、動き、タイミングの合わせ方、息も合わせての真剣な眼差だ。講師の掛け声に合わせてはつらつと体を動かし、最後まで相手の動きもしっかり見て合わせ、会場に大きな掛け声を響かせた。みんなこれ以上楽しいことはないと言わんばかりでだんだん夢中になり、お互いの動きを合わせられるほど技が上達してきた。



★子どもの様子<2回目 13:15~15:00 子ども21人 大人3人>

低学年は、殺陣の型を覚えるにも戸惑いの表情の子もいたが、講師が一人一人丁寧に声掛けをし、何度も繰り返すうちに出来るようになった。午前同様やられ方やかわし方をやっていくと俄然動きが良くなった。二列に並んで向き合い相手に合わせて殺陣をやってみる。さすが高学年はカッコよく決めて得意そうな顔。一人でやっている時よりも、組手になったら人が変わったように生き生きと動いていた。そのあと4人一組になって「映画撮影ごっこ」を取り入れ、講師・講師と殺陣をする役・カメラマン役・監督役の役割を順番にやってみた。講師を相手に殺陣をして手を払いのけた瞬間、講師がぐるりと身体をかわし床に転ぶ。「やったー！！」と言わんばかりに満足な顔。カメラを持ったポーズで回りを走りながら撮影をする子、「カーット！」と大きい声で言う子、それぞれが知恵を絞り工夫していた。最後に殺陣に使う刀を見せてもらおうと興味津々で覗き込む。目をきらめかせ「ほんとに切れるの？」「本物はどんだけ重いの？」など質問をして食い入るように長い間じっくり見ていた。



●子どもたちの声（アンケートから）

★やる前の気持ち

*きんちょうした(多数) *ときどき(多数) *どんなことがあるのだろう *ちょっとこわそう *かえりたかった *期待と楽しみなきもち

★やってみてどうだった？

*たのしかった。(多数) *むずかしかったけど楽しかった(多数)
*期待どおりおもしろかった。(多数) *刀などびっくりした。
*うまくできてよかった *来年もまたやりたい



■指導者のヒアリング・感想

みんな元気でニコニコ笑顔で、集中力も途切れずがんばっていた。むずかしい技もだんだん理解し、相手と息を合わせてやるのが殺陣の楽しさを感じてもらえて良かった。年齢が低かったのが最後の刀を使った殺陣まで行きつかなかったのがちょっと残念だったが、どの子も一生懸命取り組んでくれてうれしかった。やる前は楽しみや期待の一方で、不安や緊張感もあったが、やった後は「むずかしかったけど期待どおり楽しかった」に変化している。

プログラム

- パンチ・フック・ストレートの練習。かわしの練習。
- ポーズを相互にやり取り。
- 刀の見学。4人一組のアクションを決めポーズ。

★子どもの様子<1回目 10:00~11:45 子ども9人 大人4人>

自己紹介もはじめは緊張気味だったが、だんだんニコニコ顔になり声も出て、準備運動の動きをしていくうちにリラックスしていった。

一緒にダンスをする仲間ともだんだん慣れて、休憩時間には走り回ったり、鬼ごっこをしたり仲良くなっていく。ダンスの動きの説明をよく聞いて、真剣に気持ちを込めて動きを考えて作っていた。強風の中を歩く練習、風で飛ばされるイメージではいろいろな動きにチャレンジした。アラジンの登場人物でランプやジーニーでポーズや動きを考えようとなり、「知ってる。やる！」とノリノリになり積極的に取り組んだ。安西さんから「いいね！」と声かけられるとますますニコニコ顔になっている。自分たちのイメージした動きを作り、通して踊るとカッコいいダンスになった。ワーク中、何度も休憩しながら水分をとり、鏡面に向かってポーズを確かめたりして、まるで本物のダンサーになったような気分の子どもたちだった。



★子ども様子<2回目 13:15~15:00 子ども9人 大人2人>



自己紹介では声が小さかったが、姉妹で参加、友達で参加、他は一人で参加で、すぐに仲良くなった。体操を習っている子がいて、体も柔らかく、音楽を聞いての表現が豊かだった。風に吹き飛ばされるポーズを教えてもらおうと、「おもしろい！納得！」という感じで大きな声で笑っていた。風を吹かせるのをやりたい人と言われ、「はい」とすぐ手が上がり男の子がチャレンジ。大風を吹かせた。積極的に関わり、風に立ち向かっていく表情やロボットの表現も堂々とやっていた。ジャスミンのポーズの時に「マネー」と声かけが気に入ったようで、みんな大きな声が出て、カッコいいダンスになった。子どもたちのポーズのアイデアが随所にとり入れられ、みんなの一体感が生まれ素晴らしいストーリーのあるダンスになった。ダンス大好きな子どもたちが、より高度な振り付けに果敢に挑戦し、頬が紅潮してイキイキしていた。

●子どもたちの声（アンケートから）

★やる前のきもち

*どきどききんちょうした（多数） *何をやるのか楽しみだった *できるか不安 *友達と話したりできるかしんばいだった

★やってみてどう？

*すごく楽しかった（多数） *発表がたのしかった *さいごのポーズをがんばった *友達とたくさん話せたし、ダンスをやってみたら思った以上に楽しかった。 *みんな練習して発表したところがたのしい



■指導者のヒアリング・感想

子どもたちが仲良くなるスピードが早くてびっくり。最近転校してきて、学校でお友たちが出来ていないと言っていた子がいたが、学校と違って、なんでもないフラットなところで自分を出せて良かった。素直にアイデアを出して、積極的に関わってくれた。短い時間の中でダンスを完成出来て、すごい！みんな楽しそうだった。安西さんが子どもの動きを「それいいね！」とすぐ振り付けると、バラバラに見えていたダンスがつながっていく。その過程がすばらしい。



★子どもの様子<1回目 10:00~11:45 子ども12人 大人7人>

始めは緊張していたが、見たことのない楽器に興味津々。モフランさんの声かけや、リズムをとって叩いていく楽しさが加わりみんな緊張がほぐれていった。まずは手でリズムを叩いてみた。モフランさんこの子たちは難しいリズムも叩けると判断し、太鼓を叩くリズムを新しく高度にしたが、みんなよく聞いて上手に叩けて楽しんでいた。去年に引き続き今年も参加の3兄弟、始めは楽器が1台足りなく一番下の弟が前に来なかったが、モフランさんのシャンベを叩かせてもらいとても満足そうだった。休憩時間には、モフランさんとおしゃべりしたり、ダウディさんが弾いているギターに聞き入り「かっこいい」と言って聞き入っていた。本当に子どもたちは、リズムを身体に刻むのが早く、あっという間に覚えてしまった。音楽性のある曲になっていた。



★子どもの様子<2回目 13:15~15:00 子ども19人 大人7人>



ちょっと緊張していたが、自己紹介で声を出してリラックスし、緊張がほぐれてきた。午前中ダンスのワークでいっしょで、友達になったためか気持ちがほぐれるのが早かった。団体で参加している子どもたちがムードメーカーになり、その場の空気を和らげた。

新しいリズム「ネコ」では、一人ずつ「ネコ」のような手で短く叩き、次々リレーしていく。一人で叩くので緊張もするが、達成感や満足感に加えどんどん自信がついて堂々として太鼓をたたいた。人数が多かったので、3グループに分かれ、「♪ぶたにく ぶたにく たべたいな」と大きな声で掛け声をかけ盛り上がった。モフランさんとのハイタッチする笑顔も「やったー」と輝いていた。間違えても「あっ、ちがった」と声に出せるほど、心を開放していた。全員での発表の時、違うリズム打ちが美しく調和して、太鼓をたたき音が会場に響きわたり、ハッピーな笑顔のすばらしいパフォーマーたちの演奏になった。

●子どもたちの声 (アンケートから)

★やる前のきもち

*ドキドキした (多数) *うまくできるかきんちょうしたけど、わくわく感もあった *たのしいおもいでをつくりたいとおもっていた

★やってみてどう?

*たのしかった。(多数) *すごい大きな音を出しておもしろかった
*やったことのない楽器を使うこともできてよかった *むずかしかったけど、たのしかった *先生がやさしくてすごいうまかった
*さいしょはやりたくなかったけど、やってみると楽しくて良かった。



■指導者のヒアリング・感想

はじめは固かったけど、だんだん気持ちがのってきて、太鼓を叩くころには、リラックスできていた。新しいバージョンのリズムをしたが、みんな素晴らしかった。最後は、みんなが一番いいパフォーマンスをみせてくれた。楽器を通して自己表現していると感じた。



★子どもの様子 <1回目 10:00~11:45 子ども22人 大人12人>

- * プールいっぱい新聞紙を満たしで寝転ぶ、フトンのようにかけて見えなくする、10かぞえてバーツを起き上がる、新聞紙でハチマキしてもらった赤ちゃんも投げ込んでいた。新聞紙の軽さがいい。
- * 紙コップで個々で遊んでいるうちに「ウワー!」「いっぱい!」と言いながら最後は4人で競っていた。くずれてもまげずにくみだてていた男の子は12段重ねた。平面的な壁から立体的な塔まで一人で何通りもつくっている子もいた。
- * 男の子たちがダンボールでトンネルをつくり、つながってつなげてどんどん進んだ。紙コップとダンボールを組み合わせて遊ぶ子もいた。



★子どもの様子<2回目 13:15~15:00 子ども21人 大人12人>



- * 高校生男子のボランティアが新聞紙あそびに活躍。ビリビリの新聞紙をテープでつなぎオバケのように頭にかぶって「ウオーッ!」と言ったとたん、子どもたちは興奮し、まき散らしたり、ビニールプールに埋めたりし、反撃されたり、延々と遊んだ。「お兄ちゃんと遊ぼう!」コーナーになった。あそびに関わる世代に幅ができるダイナミックになる。
- * 男の子が来て迷路とおぼけ屋敷をつなげた。男の子は王様の椅子を工夫しながらつくり、机、キッチン、フライパン、なべ、食べ物と発想がふくらみお母さんと一緒に(協力的だった)どんどんつくっていた。そのうち皆「どうぞのいす」に座りに来た。子どもがいろいろ発想を膨らませ形にした。「すごい!」

●子どもたちの声(アンケートから)

★やる前のきもち

- * 「きんちょうした」「あまりやるきなかった」「どんなやつがあるのかな?って思った」と少し不安があった子たちと「どきどきしたり、わくわくした気もち」「どんな遊びができるのかたのしみにきた」「やりたいなと思っていた」と楽しみに来た子たちがいた。

★やってみてどう?

- * 「いがいとたのしかった」「すごくたのしかった」「もっとあそびたい」と自分で書き、親に話した子がとても多く、「来年はこま・けん玉あそびに参加したい」と他のプログラムにも興味を持った。



■親・指導者のヒアリング・感想



- * ママたちの見守りが上手だった。「大人も一緒に自由な雰囲気いいね」と言ったママは一緒にあそんでいた。
- * 「自分で率先してアイデアを出し、作って楽しそう」「子どもがたのしそうに紙コップをつんで子どもの背をこえてつめてすごいと思った。わたしも久しぶりに一緒になってやって楽しかった」と子どもがアイデアを出し、チャレンジする姿に喜びをもって自分も遊んでいた。
- * 「自由に誰にもおこられずにやりたいだけやれて子どもには最高に幸せな時間」「子どもたちが活き活きとして参加していた。自宅では広さや片づけの関係で大きな仕事をさせる機会が少ない」と、我が子だけでなく子どもたち全体をみて遊びの意味を感じた親がいた。

高校生のボランティア（5人のコメント）



高校に入ったことをきっかけに参加した今回のボランティア活動では、準備設営のことや子どもとの接し方を学んだ。「こま」では、技ができるようにと努力したり、初対面の人とコミュニケーションを自分からとりにいったりと子どもならではの側面も見えた。ボランティアとしてどう立ち振る舞うかや、人とどう接するかが、少しわかった気がした。とてもいい経験でした。(Y・N)

初めてのボランティアでしたが、小さい子どもと身近にふれ合うことができ、とても良い経験になった。特に新聞紙を使って、子どもと遊んだり、プールを引っ張ったり、時間があつという間に過ぎてしまった。とても疲れましたが小さい子どもの笑顔を見ると疲労が吹き飛んだ。今回のボランティアで、子どもが好きで保育士の免許をとりたいという意志が固まった。次回も参加したい。(S・N)

最初は、あまりなじみず子どもたちと遊べなかった。1人でコップ遊びをしていると子どもたちがどんどん寄ってきてくれて、どんどんなじんで最終的にはみんなで遊んでいて、とても楽しかった。午後のパーカッションでは子どもにあっちつかまれ、すごいモチモチになった気分、とてもうれしかった。ボランティアの経験は何度もありましたが、その中でも1番たのしかった。やっぱり子どもが大好きです…。(K・H)

今回は初めての参加で不安がいっぱいだったけれど、子どもたちとたくさん関わってとても充実した1日になった。今までは、家の近くの顔見知りの人しかいない幼稚園でのボランティアしかやったことがなくて、知らない人ばかりの状態でのボランティアは大変だった。でも、今回のボランティアを通して高校生4人のお友達ができた。将来、保育系の進路に進むにあたって、とても貴重な体験となった。また参加したい。(Y・S)

今回は初めての参加でしたが、子どもたちとたくさん話すことができた。あそびのひろばでは小さい子どもたちとたくさん話して、新聞紙でわちゃわちゃやることができ、とても楽しかった。アフリカンパーカッションでは、はじめて太鼓をたたいてみて少し手が痛かったけど笑顔でできた。ボランティアとして子どもたちを誘導することができたので、いい経験になった。また、同じような機会があったら応募したい。(S・N)

ねらい

芸術性の高いプロを講師に、子どもが芸術と出会う体験活動は、知らない世界に触れ、自分でもこんなことができるということを発見し、講師やワークを受けた仲間と楽しいと感じることを、体験、交流する。また、とすると家庭の中で過ごし、様々な人と触れ合い、自由に創造的なあそびをじっくり体験することが少ない幼児同伴の親子の体験、交流のできる場をつくる。このような場を継続してつくるのが大事になっている。

成果

芸術性も技も高い、その道のプロが子どもたちと大汗をかいて遊び込んだ。子どもたちは遊びの天才で、自由度の高い「あそびのひろば」では、子どもの発想やひらめきが、あそぶおもしろさにどんどん発展した。プロは決して手を抜かない、真正面から子どもたちに向き合った。こまやけん玉を自由自在に操る技や、殺陣の技を「かっこいい!」「すごい!」と感じ、その技を獲得することで子どもたちの満足感につながった。ダンスやアフリカンパーカッションでは、自分を表現すること、チームで協力すること、難しいリズムや振り付けに果敢に挑戦し、指導者に褒めてもらおうとさらにパワーが出て、見事な体験結果を披露してくれた。

5つの体験ワークでは、技だけでなくプロとして蓄えてきた話術、コミュニケーション力、子どもの力を引き出す言葉によって、子どもたちの心と体が動き、「やってみたい!」という動機づけとチャレンジにつながった。あそび終えた子どもたちの紅潮した笑顔から、どんなに満足した1日だったかが見てとれた。

今年応募に応えた5人の高校生がはじめてボランティアとしてかかわった。子どもたちはお兄さん、お姉さんが大好きで、高校生にとっても将来の進路を決める機会にもなり充実した体験の場になった。子どもと共に体験しいっしょに遊んだ親たちは、「自由に遊ぶ」ことの大切さを実感できたようだ。芸術と出会う体験活動で掲げたねらいは、ほぼ100%達成した。更に新たなプログラムを探し進化させて継続していきたい。



千葉県文化センター会場

National Institution For Youth Education
NIFYE 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

子どものあそび☆アート体験ひろば 2019
報告書



受付

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号

Tel:043-301-7262 Fax:043-301-7263 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

後援：千葉県教育委員会 千葉市教育委員会 公益財団法人千葉市文化振興財団